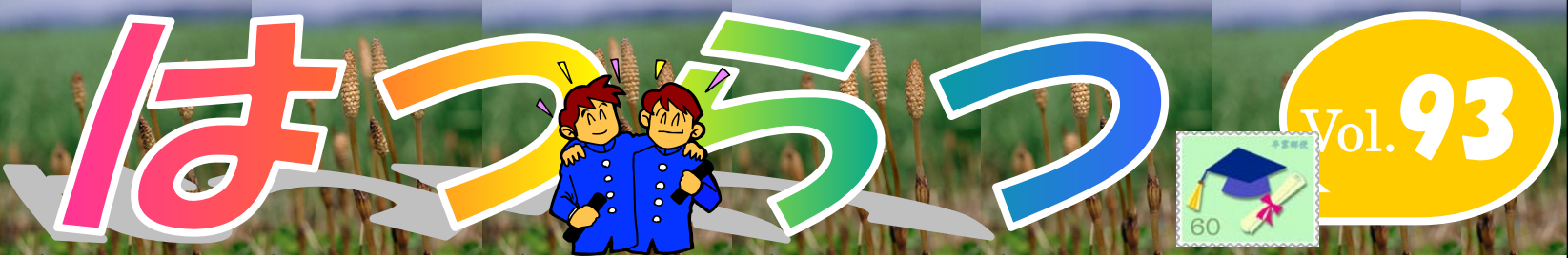


発行：はつらつ編集局
発行日：平成 24 年 3 月 1 日
発行人：吉田 秀明
編集人：はつらつ編集委員
お問い合わせ：0135-23-3126



研修医リレーコラム45

「熱が出た！」

今年もインフルエンザが流行し、町内でも学級閉鎖がみられました。このインフルエンザの特徴として高熱があります。お子さんが熱を出すと、お母さん・お父さんは大変。赤ちゃんより周りのほうが大騒ぎ、ということも少なくないようです。ここでインフルエンザだけでなく、風邪を引いたとき等にみなさんを悩ませる熱についてご説明します。

① なぜ熱が？

新しい病原体や多量の病原体が入ってきて、普通の免疫の力では対応できない時、私たちの体は体温を上げて、熱で病原体を殺し、免疫の働きを強くして体を守ろうとします。したがって体温が上がることは病気を治すために必要な、体の正常な働きと考えられます。

② 解熱剤（熱さまし）

熱さましは基本的に必要ありません。熱が高くても、元気がある時、すやすや寝ているときは熱を下げる必要はありません。たとえ熱が薬によって下がっても、体が熱を必要としているので薬がきれるとまた熱は上がります。解熱剤は病原体をやっつける病気を治す力はありません。むしろ、解熱鎮痛剤を使うことによって熱が下がってしまうので病原体が増え、感染症が悪化してしまうこともあります。

③ 発熱への対処は？

発熱への対処としては風邪のウィルスなど病原体を殺すために、39-40℃くらいまで熱が上がった時に、この熱をなるべく体の負担にならないように出し続け自分の持っている自然治癒力を十分にだせるようにすることになります。

基本的に熱が出ただけでは病院に行く必要はありません。病院に行っても解熱剤をもらって帰るだけで特別な処置がないことがほとんどです。薬局で解熱剤を買うのと何ら変わりありません。暖かくして栄養、水分を取って安静にすることが一番の治療になります。

④ 緊急に病院に行く必要がある時は？

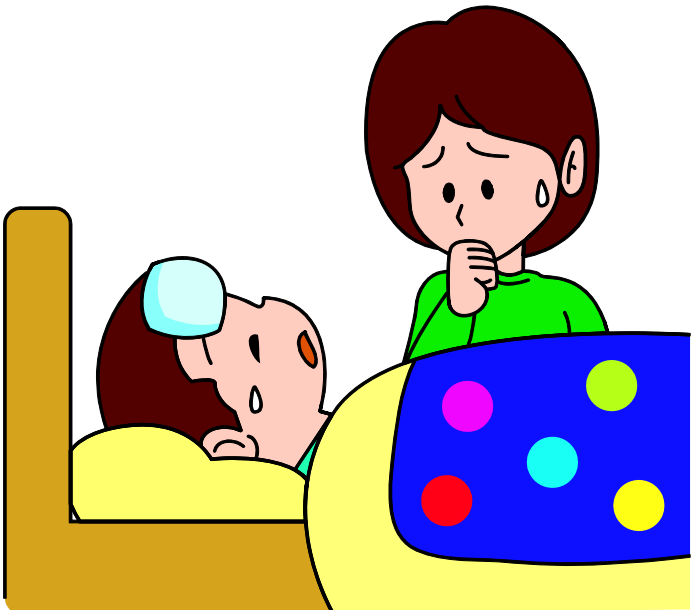
ただし、以下の場合には緊急に処置が必要なので、早めに病院に行きましょう。

- ・ けいれん、ひきつけがあった。
- ・ 吐き気、嘔吐がひどく、水分がとれず、ぐったりしている。（脱水）
- ・ 下痢がひどく、水分が取れず、ぐったりしている。（脱水）
- ・ 悪寒戦慄がある。（毛布をかぶってもガタガタ震えているのを止めることが出来ない。）
- ・ 腹痛がひどい。
- ・ 咳がひどく、呼吸がうまく出来ない。（気管支喘息の発作や肺炎。）
- ・ 呼びかけても返事をせず、意識がおかしい。
- ・ 熱が 40℃以上あるのに手足が冷たく、顔色が悪く震えが止まらないとき。（脳の熱調節が機能していなく、髄膜炎や脳炎など中枢神経の病気のことがあります。）
- ・ 熱が 5 日以上続くとき

このような場合は、検査の必要な場合が多いので、外来を受診してください。

熱自体ではあわてる必要ありません。熱と仲良く付き合い、味方にしましょう！

手稲溪仁会病院 森川 大樹



ロービー自動販売機の右隣に総合パンフレットコーナーを設置しました。

パンフレットコーナー設置



フットサル大会



救急件数（2月）

外来受診345件 うち入院30件
救急車来院63件 うち入院21件

2月25日に当院のフットサルクラブと洞爺協会病院フットサルクラブで試合をしました。12分3セット勝負で行い、**セットカウント余市 2-洞爺 1 で余市の勝利！**最期に両チーム、サポーターをミックスして交流戦を行い、親睦を深め合いました！